

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.132

2016.10.3

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

戦争法強行採決から1年 戦争法廃止をあきらめない！

9月19日、県内各地で一斉行動！

盛岡地域

●2000万署名岩手の会主催 盛岡緊急デモ

9月16日、2000万署名岩手の会主催で盛岡緊急デモが行われ、150人が参加しました。はじめに主催者あいさつで、「戦争法の廃止を求める全国2000万人署名」が県内で19万筆を超えたことが発表され、拍手が起きました。盛岡市大通を「戦争法はゼッタイ廃止」「9条壊すな」などのプラカードを掲げ、「戦争しない未来をつくろう」など声をあげ市民にアピールしました。



●都南9条の会、矢巾九条の会 スタンディング行動

19日朝7時半から30分間、盛岡市都南地域の国道4号線沿いで、両会のメンバー19人が参加し、「安保法廃止」の横断幕や旗、各自の思いを示すプラカードを持ってスタンディングを行いました。毎月19日にスタンディングをしています。祝日でいつもとは通行する人や車が違く、クラクションを鳴らして激励してくれる車、声をかけてくれる人は多かったように思いました。



●岩手県革新懇・盛岡地域革新懇呼びかけ

署名、リレートーク、スタンディング

19日12時15分から、戦争法廃止・アベ政治を許さないリレートーク、署名呼びかけ、スタンディング行動を行いました。市民など50人が参加し、50分間で署名は108筆集まりました。署名に応じていた方からは「南スーダンに派遣すれば、戦死者が出かねない」「子どもたちが戦争に行かされてしまうのはいやだ」などの反応がありました。

北上地域

●憲法改悪阻止北上連絡会 宣伝行動

19日11時から、市内で宣伝行動を行い、戦争法廃止を訴えました。毎月19日に行っていますが、祝日のため通行人は多く、「ご苦労様です」と声をかけてくれる人や、中高生の子どもたちが多く通行し、アピールすることができました。

両磐地域

●戦争法廃止両磐実行委員会主催 集会とパレード

19日18時から、一関市文化センター前で65人が参加し、「戦争法廃止・全国連帯両磐集会」を行いました。平泉や千厩の九条の会からも参加があり、若い人たちの姿も見えました。集会後にはパレードを行い、「南スーダンは戦闘地域だ。自衛隊を送るな」とアピールしました。

《裏面につづく・・・》

今月の署名行動

今月は、7日(金)12:00~12:45「野村證券前」です。
平和憲法9条改正を狙う安倍首相に、憲法守れ！の声を発していきましょう！

胆江地域

●戦争法廃止全国 2000 万人署名胆江の会 宣伝行動

19 日 10 時～、15 時～の 2 回、胆江地域（奥州市、水沢・江刺・前沢など）で街宣車で流しのテープ宣伝を行いました。政党レベルでも市内で街宣を数ヶ所で行ったとのこと。成立から 1 年の節目に市民にアピールすることができました。

釜石地域

●ストップ戦争法釜石実行委員会主催 ウォーキングデモ

19 日 17 時、青葉ビル前に集合し、参加者が今の思いをリレートークで語った後、ウォーキングデモを行いました（参加 13 人）。リレートークでは、「戦争法廃止の行動、学習をもっと広げる努力をしよう」などの決意が語られました。



2016年夏の集い「戦争を語る会」 ～3人の戦争体験を聞く～

一関九条の会

一関九条の会では、9 月 3 日、夏の集いを開催しました。40 人が参加し、3 人の方の戦争体験をお聞きしました。西城たみ子さんは「警報、敵機におびえた日々」、福西正樹さんは「一関空襲、故郷を襲った爆弾」、田島英一さんは「私の戦争時代」と題し、それぞれの体験を語りました。

このうち福西さんは、「一関空襲があったとき、家族と薄暗い防空壕に駆け込んだ。防空頭巾の上から耳をふさいでも聞こえる飛行機の旋回音、機銃掃射の爆音、体の芯に伝わるような地響き。自宅の道路に面した出窓の格子戸と商事が強烈な爆風で座敷の中に吹き飛ばされていた。駅前の被害が気になり、弟と駅に走った。穴の大きさも深さも 2 倍以上あ



った。空襲警報がなり家に走る途中、敵機の機銃掃射に見舞われ、即効に飛び込んで難を逃れた。旋回音を身近に感じ道路ではポンポンポンと何かが跳ねるような、はじけるような音がした。体がぶるぶると震え青ざめた。」と語り、「このような思いはもうしたくない。戦争はあってはならない」と訴えました。

参加者は 3 人の戦争体験を真剣に聞き入っていました。



「戦争論者」の姿を露わにした安倍首相の国連演説！

安倍首相の国連演説（現地時間 9 月 21 日）の一部を報道に見てみましょう。曰く

「北朝鮮は今や平和に対する公然たる脅威としてわれわれの正面に現れた。一連のミサイル発射と核弾頭の爆発は、景色を一変させるものだ。いまやその脅威は、これまでとおおよそ異なる次元に達した。力を結集し、北緒戦の計画をくじかなくてはならない。…」と。

この一節に係る「演説」をテレビ報道の画面で見たとき、戦前の山県有朋が「ロシア脅威論」で「対ロシア戦争」を準備していたことを彷彿させると感じました。名指しであからさまな「北朝鮮脅威論」。もちろん北朝鮮の「核実験」「ミサイル発射」は国際世論の批判に耐えるものではありません。

しかし、圧倒的なアメリカの核戦力水準からしたら北朝鮮のそれはその比ではないと思います。また、その「核の傘」に入って、自分のことは隠しての「演説—北朝鮮脅威論」は日本国民を惑わせるものだと思います。

安倍首相の露わな「戦争論者」の姿を県民の前に示して、来る臨時国会での「安保法制=戦争法」の廃止を目指して闘うことが求められます。

(T)